

孤立こぼれ落ちた命

南区見守り対象外

名古屋市南区のアパートの一室で先月、七十一歳の母親と四十歳の長男が亡くなっているのが見つかった。南署は、母親を介護する長男がくも膜下出血で急死した後、母親も原因不明の内因性疾患で死亡したとみている。高齢の親と中年の子どもが同居する世帯は、名古屋市の見守り支援の対象外。働き盛りの子どもが介護に専念することで、周囲から孤立した場合にどう手を差し伸べるのが課題となっている。

(池内琢)



母親と長男が病死しているのが見つかったアパートの前に、母親のものをどう手押し車が、鍵で柱にかけられていた。名古屋市南区で

71歳母、介護の40歳長男 病死

「新聞がたまり、人の姿が見えない」。アパートの大家の男性(五十歳)が、近所から連絡を受けたのは三月八日の夕方。部屋は母親と長男の二人暮らしで、すぐに一〇番した。

部屋に入った署員は、浴室の中で長男が、トイレ近くで無職の母親とともに死亡しているのを発見。検視の結果、外傷は見当たらず、長男が七日午前中、母親が八日午後三時ごろに相次いで病死したと結論付けた。

大家によると、親子は五年前に入居。契約書に長男の職業は「会社員」と記され、作業服姿で出掛ける長男を周囲の人が見ていた。母親も当初は手押し車で外出していたが、最近は姿を見かけなくなっていた。

昨年、大家は風呂釜の故障で部屋に入った時、昼間なのに母親が布団で伏せており、長男が一人で介護しているのと知った。ただ「長男は寡黙な人で、困り事を話すこともなかった」。

築四十年超のアパートの家賃は四万円。長男が母親の介護のために離職したのかどうかは不明だが、署の調べで最近働いていなかった。捜査関係者によると、親子は母親の年金で暮らしていたという。親子は家に閉じこもる生活が続き、周囲から孤立を深めていったようだ。

近所に住む主婦(五十歳)は時折、長男が部屋で「何やっているんだ」と母

親に怒りをぶつける声を耳にした。「一人での介護が大変だったのでしょう」と気遣う。大家はその後も部屋を訪ねたが、長男がドアを開けることはなかった。

名古屋市によると、市職員や民生委員が、住民基本台帳を基に定期的な家庭を訪問するのは、六十五歳以上の独居世帯と七十五歳以上の高齢者世帯で、働き盛りの子どもと同居する高齢者世帯は対象外。区の訪問リストにこの親子は載っていないかった。

市南区役所福祉課の岩田美知子課長は「親の介護で孤立する人は多く、今後の課題。行政だけで把握するのは限界があり、異変に気付いた近所の人は最寄りの福祉窓口につながる」と呼び掛ける。

介護離職 年10万人

「抱え込まないで」

る介護離職も社会問題になっている。総務省によると、全国で介護を理由に離職した人は年間約十万人に達し、高止まりしている。介護離職を防ぐために、川内さんは「介護は家族が担うもの」という先入観を捨てるべきだ」と主張。自治体の福祉窓口や地域包括支援センターを頼ることを勧める。